

会議議事摘録

会議名	2019年度第2回学校関係者評価委員会
開催日時	2019年11月17日(日曜日)10:00~12:15
場 所	本校404教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、磯田眞美(保護者)、伊藤由紀(高等学校関係者)、篠塚 功(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、(計6名)</p> <p>②学校：橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、村山由美(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、黒田 潔(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、三宅かおり(医療マネジメント科副学科長、教務委員長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長)、前田律子(看護科担当副校長・学科長)(計10名)</p> <p>③事務局：松本晋圭、土屋瑠美子、手塚理恵子(計3名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計19名)</p>
欠席者	樋本 慶(くすり関連業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者)、小田真理子(字幕制作・速記者養成科学科長)、伊東由美(看護科副学科長)
配付資料	<p>①事前送付：</p> <p>□資料1：2019年度第1回学校関係者評価委員会議事録、□資料2：2019年度第1回委員会以降の主な経過報告 別添A：2018年度進路決定状況、2019年度進路決定状況、別添B：2020年度生学生募集状況、別添C：2019年度教員研修計画・実績、別添D：2019年度入学生の基礎学力調査報告、別添E：2019年度前期授業アンケート集計結果、資料3：平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告(中間点検)、資料4：2019年度重点目標の取り組み状況報告(中間点検)、資料5：2019年度学校関係者評価報告書(案)</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>専門学校教育をめぐる最近の動向として、来年度からの修学支援新制度、いわゆる高等教育の一部無償化が始まる。本校はその対象校として9月末に無事に認定された。全国の専門学校の約6割、東京では約5割の学校が認定を受けた。認定には教育の質保証と情報公開が義務付けられており、自己点検・自己評価に基づくPDCAサイクルを回す活動が求められる。</p> <p>これからの時代は仕事に対する信頼性が大事になってくる中で、教育も見える化を積極的に推進し、学校に対する信頼を常に得ていこうというスタンスで進んでいる。学校関係者評価委員会の皆様には、ぜひサポート的な立場でご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(説明者：保坂委員長)</p> <p>前回議事録(資料2)について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨</p>

の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

3. 経過報告（説明者：宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局松本）

2019年度第1回委員会以降の主な経過について、資料2に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）

各担当者が記入した中間点検の記述に従って、ページごとに追加コメント、質問・意見をいただく形で進行した。委員会からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

5. 2019年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）

橋本校長より重点目標の取り組み状況について中間報告が行われ、委員からは特に質疑・意見はなく、確認、了承された。報告の詳細は別紙のとおり。

6. 2019年度学校関係者評価報告書案について

2019年度学校関係者評価報告書案の内容について資料5に基づき意見を求めたが、委員からは特に修正・追加はなく、本日の委員会に出された意見の追記及び総評を付記して報告案を作成することが確認、了承された。各委員の総評は別紙のとおり。

7. 意見交換など

前半の質疑でさまざまな意見をいただいたので、意見交換は省略することが確認、了承された。

8. 次回日程、その他

事務局より、次回は3月中旬～下旬を予定している。改めて都合を伺うので回答をいただきたいとの報告があり、確認、了承された。

以上

2019 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 経過報告

○宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局松本より資料 2 に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連（説明者：宮下事務局長）

(1) 退学の状況

(2) 2019 年度進路決定状況（別添 2 - A 参照）

- ・資料 2-A-①は、前回委員会で指摘された点を修正し、卒業予定者数から進学・家業（企業推薦含む）を除いた人数を就職対象者として集計したものである。

2. 学生募集関連（説明者：宮下事務局長）

(1) 入学試験及び出願状況（別添 2 - B 参照）

- ・10 月 12 日（土）に予定していた入試は、台風のため 19 日（土）に変更した。

3. 教務委員会関連（説明者：(1) 三宅教務委員長、(2) 事務局松本）

(1) 2019 年度教員研修実施計画・実績（別添 2 - C 参照）

- ・教務委員会主催の研修は、7 月に川口学園法人本部との共催で行った。（対象は管理職以上の教職員、一般職は 12 月。）
- ・8 月に、タイムマネジメント研修を行った。

(2) 2019 年度入学生の基礎学力調査結果（別添 2 - D 参照）

- ・新入生を対象に共通基礎学力テストを毎年 4 月下旬～5 月上旬に実施している。
- ・退学者との関係を入学 1 年後の数字で追っている。退学の理由はさまざまなので、一つの参考という形で学科・教員にフィードバックをしている。

4. アンケート関連（説明者：事務局松本）

(1) 2019 年度前期授業アンケート（資料 2 - E 参照）

- ・実施時期 6 / 10（月）～14 日（金）※実習等の関係から一部の学科は前後で実施
- ・集計報告 授業科目担当者に単純平均値と自由記述を 2 週間後に報告
- ・結果のフォロー コメントシートに記述して 8 月末までに学科長に提出

(2) 2019 年度学校生活に関する調査

- ・実施時期 10 / 23（水）～29 日（火） ※現在集計中

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 内定先で国立病院が増えているが、きっかけはあったのか。採用には公務員試験も必須なのか。	<input type="checkbox"/> 明確なきっかけは不明だが、昨年から増えている。公務員試験はなく、専門職としての採用である。
<input type="checkbox"/> 授業アンケートの結果で、3 年生の評価が急に上がった要因は何か。あわせて回収率を伺いたい。	<input type="checkbox"/> クラスの状況によって変わりやすいところがある。実際に指導に当たっている先生方からコメントをいただきたい。 なお、回収率は集計していないが、必ず授業内で実

<p><input type="checkbox"/> 共通基礎学力テストと退学率との関係と、基礎学力テストの成績があまりよくない学生に対して、具体的にどのようなサポートをしているのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 医師事務作業補助者のコースができたことは、学校のアピールポイントになると思うが、他の専門学校にもあるのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 医師事務作業補助者とクラークの違いは明確にあるのか。</p>	<p>施しているので、特に問題はないと思っている。</p> <p>看護科の今年の3年生はまじめに取り組むクラスである。</p> <p>3年生（診療情報管理専攻科）は本人が希望して上がってくるので、1、2年生以上に真剣なものがある。また、大幅なカリキュラムの改編が良く影響しているのかと思う。</p> <p><input type="checkbox"/> その学生に目をかけて指導するところもあるが、保護者の協力を得ることにも力を入れてきた。</p> <p>授業後にリアクションペーパーや小テストで理解度の確認を行い、理解していない人には後で教えたり、グループで競わせる等の工夫をしている。</p> <p>各教員が授業の中で補足したり、リアクションペーパーで疑問点を調査しながら、授業に反映している。</p> <p><input type="checkbox"/> 求人が増えてきている分野なので、他校も取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医師事務作業補助者は、ドクターについてカルテの代行入力、検査の予約、書類作成等の業務を行い、クラークは病棟や外来の診察の現場で連絡調整や事務的な作業に当たる。</p>
--	--

次第4. 平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）
（資料3参照）

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> Gメールを使用した卒業生の動向の調査を年度末に1回行ったが、それだけでは回答しづらい部分があると思う。卒業生の声をシラバスに生かすことも大切であると思うので、質問事項を整理した上でもう少しこまめに配信してもよいのではないか。また、CSCだけでなく、担任からの配信</p>	<p><input type="checkbox"/> 配信時期、配信元、活用の方法等、まだまだ工夫が必要だと思う。引き続き検討・改善していきたい。</p>

<p>があってもよい。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業生の社会的評価は対外的にも重要な部分だと思う。特に、卒業後3年目ぐらいまでの動向を継続的に調査する方法を考えてはどうか。</p> <p><input type="checkbox"/>今は、大学でも病院経営、病院管理のところに男性が結構入っている。医療マネジメント科はそういうところと目指しているものと同じではないのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>ご意見として承った。</p> <p><input type="checkbox"/>大まかに言うと、医療事務系と診療情報管理士を目指す形になる。</p>
---	---

次第5. 2019年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）（資料4参照）

○橋本校長より、今年度の重点目標と、その達成のための取り組み状況（中間点検）について以下のとおり報告があった。

①TPCの育成と強化

- ・専門学校は職業人としての自立を促す教育という前提で、自ら学ぶ仕組みをつくっていくことを目標としているが、授業公開では、アクティブ・ラーニング及びICT機器の利用の有無の欄を設けて、誘導的に示した。
- ・卒業生の社会的評価という点では、たとえば介護福祉士等、養成施設で基礎から学んだ人の伸びしろが大きいことを証明し、社会に示していきたい。

②学び直し等の教育プログラムの開発

- ・大学院の先生の協力による外国人就労者の指導者を対象とした日本語教育講座のほか、教養講座的なものも含め、幾つか企画を立てて、進行している。
- ・卒業生との結び付きを深めていくため、校友会と連携したイベントも実施している。

③ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・学校教育は大きな変わり目にある。学校存続のためには、今やっている教育の見直しも必要なことから、2021年度には医療事務系学科のリニューアルを予定している。今後は、学校のマネジメント層だけでなく、全教職員がビジョンを共有して、学校の見せ方、魅力付けなども含めて、一人一人が自分の問題として一緒に考えていくことを目指している。

次第6. 2019年度学校関係者評価報告書案について（資料5参照）

○各委員の総評

- ・日々の授業をされながら、これだけの項目を点検し、まとめられていることに頭が下がる思いである。
- ・募集において情報の発信の仕方を検討していただきたい。
- ・高校の現場でもアクティブ・ラーニングが進んでおり、今年度からそれに慣れた生徒が卒業する。今まで以上にアクティブ・ラーニングに注力していただきたい。
- ・継続となっている懸案事項がある中で、新しい試みも行っている。例えば保護者会の実施、成績表の送付、AO入試などの入試方法・入試時期の改善である。これらが今後の結果に結びつくことを強く期待したい。

- ・日常の仕事だけでも大変である中、重点目標を中心に1つ1つ課題を挙げ、それに対して中間点検を行いながら進めているのはすばらしいことだと思う。継続して頑張っていたきたい。
- ・本校で学んでいる学生たちは、職業人として社会の中で重要な役割を担っていくという認識を持っているので、TPCの育成・強化には今後も取り組まれていくことに期待したい。
- ・授業アンケートで評価が高かったのは授業の工夫の成果だと思う。しかし、評価項目の中の「学生の授業への取り組みに関する質問」で、一部、そのレベルでよいのか疑問に感じる。一度、見直していただきたい。
- ・自己点検を行い、課題を見つけ、その課題に対して取り組み、また評価する活動に、正面から取り組む姿勢はすばらしいと思う。
- ・評価項目にもあるように、企業や保護者との連携、高校とのかかわりが求められていると思うので、もう少し企業、保護者、高校の先生方を見ていくことを求めたい。

以上